

0808

1335

軍極秘

自昭和十六年十二月九日
至昭和十六年十二月十日

元山海軍航空隊戰鬥詳報 其七

(馬來部隊第一航空部隊甲空襲部隊)

(馬來沖海戰)

45/50

目次

第一	計画
第二	経過
第三	重要電報
第四	成果
第五	被害
第六	功績
第七	所見

附表第一 飛行機隊編制表

二 行動圖

三 合戦圖

四 死傷者調査表

五 被弾圖

第一計画

上受領セル命令

(1) 馬來部隊第一航空部隊電令作第十三號

機密第三一七番電 九日 二二〇〇

明早朝、飛行機準備ニ關シ左ノ通定ム

甲部隊 雷車ニケ中隊 爆車一ケ中隊 偵察一ケ中隊

乙部隊 雷車ニケ中隊 爆車一ケ中隊 偵察一ケ中隊

- 六 兵器故障缺損調査表
- 七 兵器消耗調査表
- 八 燃料潤滑油消費調査表
- 九 戦闘概報

(目次終)

丙部隊 偵察 五機 其他上空哨戒
丁部隊 雷轟 三ヶ中隊

(終)

(四) 馬來部隊第一航空部隊電令作第十四號
29機密第三一八番電 九月二二三〇

明十日偵察及轟關左通り定

一偵察 甲空襲部隊

偵察隊九機 〇六三〇 糸進 〇口区域

丙空襲部隊 〇一区域七番線

二各隊雷轟隊。七〇〇以降即時待機

(終)

(三) 馬來部隊第一航空部隊電令作第十五號

九月 一九三〇

二攻婁計画（十月十日）

（一）編制

西		中		指揮官
婁		雷		
		一石原大尉		隊中隊長
一山崎飛曹長	三小沼飛曹長	二植山中尉	一小標津飛曹長	隊小隊長
				兵
				力
		九六陸攻		
		九機		

一今夜、ES攻婁ヲ取止ム
 二各隊ハ全力ヲ舉テ敵戦艦ヲ攻婁スベシ
 一五二五ニ於ケル敵戦艦ノ位置ヲモハシメ
 針路ノ度速力ニ節

（終）

(三) 行動

(一) 發進時刻

索敵隊 〇七三〇

攻惠隊 〇七〇〇 以後即時待機

(四) 索敵法

佐			少				
隊敵索		隊惠爆		隊			
牧野大尉		三階堂大尉		二高井大尉			
三	二	一	三	二	一	三	二
鶴沼飛曹長	帆足予少尉	井上飛曹長	平井飛曹長	野村中尉	板村飛曹長	平松飛曹長	金田飛特少尉
九六陸攻		九六陸攻		九六陸攻			八機
九機		九機		九機			八機

第二経過

(三) 發射法 單機逐次發射

(四) 爆毒

(1) 爆毒目標 主力一番艦

(2) 使用爆彈 五番通常爆彈 九發

(3) 爆毒高度 三五〇米

(4) 照準投下 一航過一齊投下

(5) 爆毒隊形 凸梯陣

(五) 燃料

索敵隊 三六〇〇立

雷毒隊 三〇〇〇立

爆毒隊 三六〇〇立

0816

1343

二二六	四索ノ敵味方不明、二隻索見 基兵六八度三三五、針路一九〇度 速力一二節	〇六二五	二〇基地上空索進(九機) 附表第二再(一)、如ノ索敵行動ス	時刻	索	敵	隊
二四三	敵艦巡ラニ艦艇(隻索見基兵ヨリ) 方位一九三度五五、針路二二〇度 速力三〇節	一〇二〇	二〇基地上空索進(二六機) 天候快晴視界三〇哩 砲友索動機不調引返ス	時刻	攻	索	隊

二十二月十日

一九〇四
一十二月九日(雷轟隊)
二〇基地上空索進(十七機)
二一〇五 力七一岬以内天候不良、為進入不能介商引返ス
二三五五 全機二〇基地帰着(十七機)

一四四

三索ノ敵主力ヲ発見(四度)度五五分
針路ニ度速力ニ節(爾后)五〇。
此触接偵察報告ノ任ニ當ル

一三五〇

三索ノクタン飛行場施設爆轟
再ハ敵主力ノ触接任務ヲ続行ス

一四四
一四〇

敵艦隊下合
雷雷隊索敵機ヨリ敵主力ヲ発見、雷ヲ
受テ反戦敵主力ニ向テ

一四一

爆雷隊前部艦艇ヲ敵主力ト誤認之ヲ
爆雷隊遂ニ就テ

一三〇

雷雷隊敵主力ヲ発見

クワンタン、五五度針路ニ六〇度速力ニ節
駆逐艦三隻ヨリナル直衛ヲ既ニ航行序列
ヨリニヌ、オウツキル、レパルス、

一三〇七

突撃

一三一四

第一中隊「フリエオウツキル」雷雷

一三一五

第二中隊「レパルス」雷雷

(各機雷雷時敵艦艇ヲ銃撃ヨリ加フ)

一三一五

之ヲ自爆ス

一三二二

雷雷隊終了帰途ニ就テ

一三五七

上330操縦装置故障ヲ先行ス

一四二〇

「レパルス」雷雷

一四三三

「フリエオウツキル」左ニ傾斜シテ艦尾ヨリ
爆雷次オニ沈没シタリ

一九一〇	<p>三〇。基地帰着</p> <p>一五〇。六三索レ敵戦機八機、追蹙ヲ受ク「コクパル」ニ向フ</p>
一九一〇	<p>二〇。基地帰着(二四機)</p>
一七三〇	<p>三二〇。ソコトラン着(三機)燃料補給</p>
一六〇〇	<p>爆薬採取着(九機)</p>
一五一五	<p>子姪「コクパル」着</p>
一四四三	<p>子姪単独「コクパル」ニ向フ</p>
一四一五	<p>「プリンス」オグザキールス喜沈</p>
一三四〇	<p>子姪尾部大破先行ス</p>
一三四二	<p>子姪留臺后反転偵察上「ソコトラン」ニ向フ</p>

0819

1346

第三、重要電報

(1) 十月九日

時刻	發着	種別	信	文	重要記号
二〇一	21 32D	指 描	我電話機故障	一九五〇	
二二八	1 IN	地	カモノ岬以南進入不能引返ス	二一〇五	二一〇五 攻撃隊及 戦引返ス
二二五	1 42D	"	敵主力、位置知らセ	二一〇五	
二二〇	1 61D	"	敵見ユ		
二一四	1 61D	"	オビ島、一五〇度九〇埋	二一三三	
二一〇	1 IN	地	方位測定電波ヲ送信ス	二一四〇	
三五五	1 61D	地	味方上空引返セ	二一五五	
二二〇	1 61D	地	接触ヲ止メ返途ニ就ク	二二〇〇	
二二七	1 IN	"	入機編隊飛行中我二二五五着、予定		

0820

1347

32

時刻	發着	着種別	信	文	重要
〇九一七	地上	地上	〇三四敵主力、位置〇七島、一七三度、深南方、道中、四五六、索敵給、進出、巨角、六〇、深トス		
〇九二一	地上	地上	敵味方不明、二身、三身、三、方位一八八度、三三五深、針路一八〇度、速力一二節		
〇九二八	地上	地上	一七三度、深、附近、天候、晴、雲量、六、雲高、二五〇、視界、二〇、深、層積雲、所、積乱雲アリ		
〇九三三	地上	地上	基地ヨリ、四〇、深、雲量、八、雲高、三〇〇、視界、二五、深		
〇九四一	地上	地上	〇九〇、敵主力、位置、西貢、一九〇度、四二〇、深、針路、一八〇度、速力、二〇、節		
一〇〇二	地上	地上	基地ヨリ、方位、一九〇度、四〇〇、深、下層、雲量、五、雲高、五〇〇、上層、雲量、一〇、雲高、三〇〇、視界、三〇、深		
一〇三〇	地上	地上	我左舷、動機故障、引込ス		

(四) 十月十日

二二一七	2V 31D	11 31D	二二二五 甲機 返投中	二二四〇	
二三三三	2V 2V	地	三機 編隊 飛行中 二三四〇 着、予定	二三〇〇	
二三三〇	2V 31D	"	我二三五〇 着、予定	二三三〇	
二三五〇	11 42D	2V	二機 編隊 飛行中 我二三五〇 着、予定	二三三〇	二三三〇 帰着

3Y	3Y	3Y	3Y	3Y	3Y	3Y	3Y
一三〇七	一三〇六	一三〇二	一三〇〇	一二四二	一二三〇	一二二七	一二〇七
"	"	地上	"	三索	三索	"	"
三索	三索	三索	"	"	"	"	"
"	"	"	"	"	"	"	"
長波ヲ輻射セヨ	敵主力ノ位置ヲハミズノ何度ナリヤ	一五〇迄接触コトヲバルニ行ケ	敵主力ノ位置ヲハミズノ何度ナリヤ	敵主力ハ変針ス 針路六〇度 速度力ニ〇節	敵主力ハ変針ス 針路六〇度 速度力ニ〇節	爆薬終了ノ時ニ就ク	敵主力ハ變速艦ヲ見ヨリ基ヲ見ヨリノ方位一八九〇度ニ置ニ針路ニ〇度 速度力ニ〇節 爆薬命ヲセク
一三五〇	一三〇〇	一三〇〇	一三五〇	一三三〇	一三二七	一三一七	一三四五
							敵主力ハ變速艦ヲ見ヨリ基ヲ見ヨリノ方位一八九〇度ニ置ニ針路ニ〇度 速度力ニ〇節 爆薬命ヲセク

第四成果

一八五	一七三	一七八
"	"	1/320
"	"	"
"	"	"
一九五三機着予定	五機ソクトラン着	一七三〇ソクトラン着予定三機
一八三〇	一七三〇	一六五〇
一九〇〇三機 三〇機北着		

一 索敵隊

索敵隊ハ附表第二ノ部載ノ如ク概テ所定海域ノ索敵ヲ實
施シ内第三索敵線ハ敵主力ヲ發見終始之ガ接触偵察報
告ニ努メ完全ニ其ノ任ヲ全フセリ

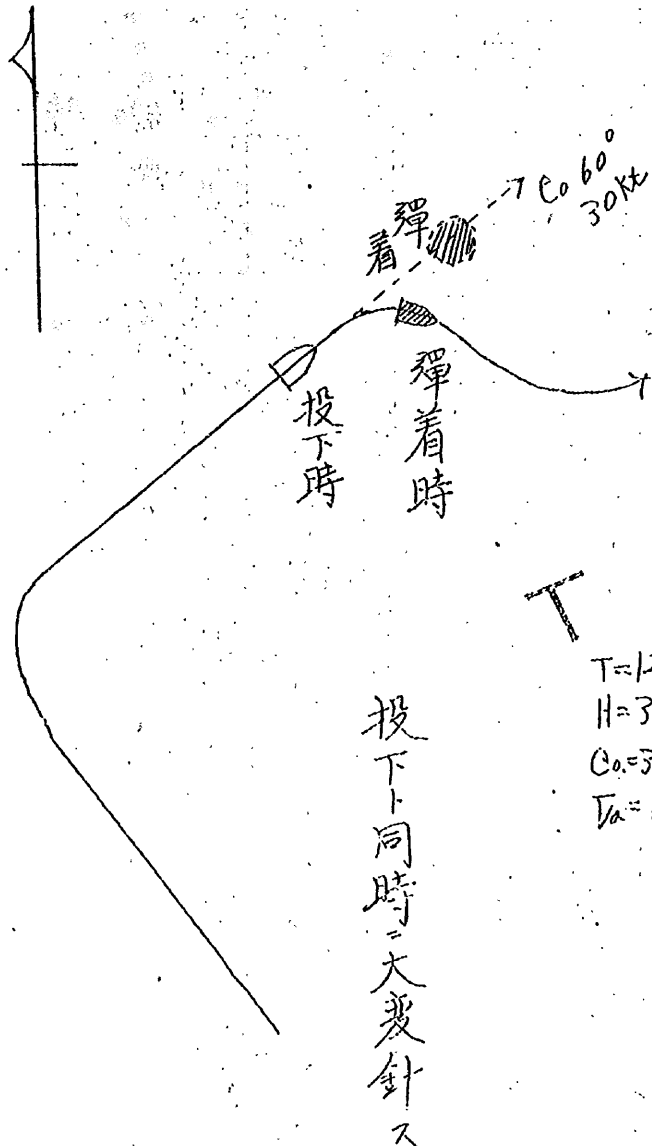
二 爆雷隊 (第三中隊)

對輕巡爆雷

時刻 一三二四

0225

1352



爆 爆
 中 中
 彈 彈
 数 数
 命 命

ナ
 ン
 三
 五
 〇
 米

T=1214
 H=3500
 Ca=330
 Va=120

投下と同時に大発針ス

三 雷擊隊 (第 11 中隊)

① 雷擊隊 (第一口隊)

小隊	機号	時刻	雷 標	判定 的速	敵情	進入 針路	舷角	射角	照準兵	氣速	高度	射程	主操氏名
1 31D	G- 351	13/4-30	Prince of Wales	28	直進中	概略 270°左80°	28°	艦中央	145	25-30	600	未	小柳津飛曹長
2 31D	G- 352	13/4-40	Repulse	25	直進中 射角回避	260°左90°	20°	右橋	155	45	1100		大竹一飛曹
3 31D	G- 367	13/4-50	Prince of Wales			自			爆				川田一飛曹
1 32D	G- 354	13/5-0	"	26	内方回避	260°左80°	22°	艦中央	155	30	1000		植山中尉
2 32D	G- 355	13/5-10	"	22	"	290°左30°	5°	前艦橋	150	30	600		内山三飛曹
3 32D	G- 356	13/5-30	"	26	"	255°左60°	20°	舷	150	5-10	700		里見二飛曹
1 33D	G- 357	13/6-10	"	24	外方回避	40°右80°	20°	艦中央	145	60	1000		小沼飛曹長
2 33D	G- 358	13/6-20	"	24	"	40°右60°	15°	"	150	40	800		丹生一飛曹
3 33D	G- 359	13/6-30	"	26	外方回避 射角回避	35°右30°	10°	舷	145	30	1500		中島二飛曹

1353

0626

10

(第二中隊)

小隊	機番	時刻	雷目標	判定の速	敵情	進入針路	仰角	射角	照準	氣速	高度	射距離	主操氏名
1 410	9- 371	1322-0	Repulse	20	内射中 射直進	0°	右20°	17°	艦中央	165節	40米	1000	高井大尉
2 410	9- 372	1315-20	"	20	"	90°	右70°	17°	"	156	50	900	山本三飛曹
3 410	9- 381	1315-30	"	22	"	85°	右65°	16°	"	130	25	700	山田三飛曹
1 420	9- 375	1316-30	"	23	"	100°	右80°	19°	"	160	20	900	岩橋三飛曹
2 420	9- 373	1317-0	"	22	直進中	315°	左90°	15°	船首	160	30	800 1000	平山一飛曹
1 430	9- 382	1318-0	"	25	"	330°	左90°	25°	艦中央	155	50	1000	齊藤一飛曹
2 430	9- 377	1317-55	"	24	"	330°	左90°	25°	"	158	40	1200	空園飛曹長

1354

0627

02

(四) 命中留敷

詳細不明ナルモ多数命中レ兩艦共ニ留敷後著ク減

速セリ

四 空戦

敵戦闘機八機三索敵線機ヲ追蹙セルモ空戦ヲ行ハズ

第五 被害

一 防禦砲火

突撃下令後間モナク全艦全砲火ヲ以テスル極メテ熾烈ナル集

中砲火ヲ受ク

二 防禦砲火ニ依リ

自爆 一機

被弾機 四機

(附表第五被弾図)

第六功績

九日一九三。敵戦艦攻撃命令ヲ受領スルヤ直チ雷撃隊
 二箇中隊出發シ不幸 天候不良ノ為引返セルモ、十日早朝
 索敵隊攻撃隊相継ギ出發シ、索敵隊ハ克ク敵主力ヲ
 發見、爾後之ヲ接触、偵察報告ニ努メ其ノ任ヲ全フスルト
 共ニ雷撃隊ハ熾烈ナル防禦砲火ヲ冒シ肉迫必中、雷撃
 ヲ實施シ遂ニ敵戦艦「プリンスオヴウェールズ」及「バルス」ヲ
 撃沈シ英國極東艦隊主力ヲ撃滅セル功績披群ナリ。

第七 馬來沖海戰ニ對スル戰訓所見

一 航行艦隊ニ對スル襲撃法

(1) 航行艦隊ニ對スル有効ナル襲撃法ハ從來推賞セラレアル多敷
 機ヲ以テスル協同攻撃ヲ有利トシ、特ニ留撃隊ノ襲撃ヲ容
 易ナラシムル目的ヲ以テ爆撃隊ヲ先行セシメ襲撃ニ先キ爆撃
 セシムルコトハ有形無形ノ効果ヲ齎スコト大ナリ。今次海戰ニ於
 テニ番艦ノリハルスハ美空ノ直撃彈ニ依リ當隊飛行機隊
 ノ襲撃時ニ於テ既ニ戰意喪失セシモノ、如ク防禦砲火ハ
 亂撃トナリ只管回避運動ニ終始セル事實ニ徴スルモ明カナリ。
 (2) 敵艦隊ニ對スル空中攻撃ハ所要兵力ノ統一指揮ヲ以テスル集
 中攻撃ヲ理想トスルモ、飛行機行動力並ニ異基地ヨリ
 突進スル飛行機隊ノ集合等關係上今回如ク急遽各

攻電隊毎ニ奔進シ速ニ敵ヲ捕捉シ與ヘ老ブ敵ノ速カラ
奪ヒ連續反覆攻電スルヲ有利トスルコトアリ
此の場合一攻電單位ハ主力艦一隻ニ対シ一箇中隊ヲ最ト限
度トス

(ハ)

先頭艦ニ対スル過集中ヲ避クル為 予ノ目標ヲ配分シ置キ
要アルト共ニ實施ニ當リテハ 好対勢ノ目標ニ対シ攻電スル要
アルハ勿論ナルモ 實戰場裡ニ於テハ 射突ニ在ル艦ヲ選定スル
結果 戦列中ニ於ケル損傷艦ニ過集中スル慮アリ

今次海戦ニ於テモ先頭艦ヲ雷電セルハ最初一襲電セル者隊
飛行機隊半數ハ八機ト鹿死ノ一部計十四機ニシテ他ハ
爆電及最初ノ雷電ニ依リ損傷セルニ番艦リパルスニ集中中
スルノ結果ヲ見タリ 而シテ戦艦ハ襲電後一瞬ニシテ沈没スル
コト極メテ稀ナルベキヲ以テ損傷艦ニ必要以上ノ打電ヲ與ヘルコト

(ホ)

高速艦対し低高度発射ヲ實施スル為ニ相当突込ノ要アリ
 従ツテ高度ハ過早ニ低下スルコトナリ近巨離ニ達スル迄高度ノ余
 裕ヲ保ケ充分接近シテ発動機ヲ絞リ急降下スルヲ通者ト認ム
 之即敵面避情況ヲ察知スル上ニ於テ極メテ有利ニシテ回避ニ即
 應スルコトモ容易ナルノミナラズ精神的ニ余裕ヲ生じ遠巨離發
 射ヲ防止スル算大ナリ

(ニ)

凡反面ニ於テ無疵ノ艦ヲ生スルコトアルヲ考慮し目標ノ選定ニ
 當リテハ戦列ニアリテ戦闘力(運動力)減耗シテラハサルガ如ク
 看取セラル、艦ヲ主目標トスルコト所要ナルベシ
 敵水上艦艇ノ艦型識別ハ遠巨離ニ於テハ極メテ困難ナリ、
 襲撃時ニ於テハ味方艦艇ノ所在又ハ敵上ノ關係位置等
 ヲ明確ナラシムルコト所要ナリ、

二 射法並ニ發射法

- (ハ) 發射後、回避運動ニ關シテハ其時、對勢ニ應ジ一概ニ論ズルコト能ハズ。今更ニ、經驗ニ徴シ、徒ニ巧妙ナル回避運動ニ提ルコトナク、情況許ス限リ直線運動ヲ以テ主トシテ、高速齊脱ニ努ムルヲ可ト思考ス。尚此、場合、波状運動又ハ上下運動ヲ加フルコト、避彈上有利ナリ。
- (ト) 敵防禦砲火、炸裂時、爆煙ニ依リ、反對側、直視困難トナルコトアリ。以テ同時、掠襲ノ場合ハ注意ノ要アリ。
- (チ) 今回、プリンスオブウェールズ艦襲撃際、直衛駆逐艦ノ至近、巨砲ヲ突破シタルガ之等、駆逐艦ノ防禦砲火ニ依ル被害皆無ニシテ、襲撃上、意トスルニ及ラザル艦數僅カニ三隻又ニシテ之ヲ以テ、嚴重ナル對空警戒幕突破時、次資料トスルニ至ラス。

(イ) 的速判定ハ極ノテ困難ナリ

(ロ) 奥雷命中ニ依ル敵速低下ハ相當大ナルモ、如ク後續隊

考慮ノ要アリ

(ハ) 奥雷命中ニ依ル水煙水柱等ハ照準彗射上障害トナラズ

(ニ) 現用照準器並ニ職装、儘ニテハ射角二〇度以上、照準ハ

困難ニシテ發射舷ニ應ジ照準器支基ヲ移動スル要アリ

遮風板(風房)ニ角度目盛ヲ附シ彗射セル機アリ

(ホ) 副砲、彈着ト覺ヒキ水柱多數認メタルモ射兵附近ニ彈

着ヲ集中セシムルト困難トシ、如ク全然妨害ヲ受ケズ

(ヘ) 奥雷命中ニ依リ艦傾斜シ回頭、状況判断ヲ誤ルトアリ

襲撃時ニ於テ主操、任務ハ過重トナリ勝ナリ、

主操副操偵察三名、任務分担ヲ定メ主操ヲ補佐スルコト

特ニ肝要ナリ

三 攻撃効果

今次襲撃ニ於ケル雷轟命中率ハ極力調査ニ努メタルモ明確ナラサルハ甚ク遺憾ナリ、而シテ前大戦ニ於ケル急造艦タリシ「リパルス」ガ三十数機、雷轟ト直撃彈（三五〇斤）ニ彈ニ依リ轟沈セシハ首旨ニ得ル所ナリト虽モ十数年間ニ亙ル研究、結果トモ謂フベキコトナリトスガ僅々十数機ノ雷轟（半数以上改「臭雷」）ト直撃彈（五〇斤）ニ彈ニ依リ轟沈セラレタル事實ハ單ニ英主力艦防禦力ノ弱ニミ帰スベクモアラズ艦艇攻撃ニ於ケル爆彈及臭雷ノ偉力絶大ナルヲ確認シ得タリ

四 対空射撃ニ依ル雷轟隊ノ被害

12
4
23-4
24-4
25-4
26-4

(イ)

襲撃場面、天候ハ高度ニ五〇〇米附近及三〇〇米附近ニ接
敵上利用シ得タル断雲存在セシト雖モ特筆スベキ程有利
ナル天象ト稱シ難カリシモ拘ラズ被害僅少ナリシハ

(1) 猛烈ナル回避運動ニ依ル射撃精度、低下

(2) 多数機ニ対スル射撃指揮法ニ關スル訓練不足

(英國空軍ハ大編隊訓練ヲ實施シラズト、情報アリ)

等推察シ得ル所ナリト雖モ從來砲術学校ニ於ケル研究成
果ノ如キ大被害ヲ蒙ルモトハ認メ難ク特ニ爆撃又ハ雷撃ニ
依リ最初ノ命中彈(臭雷)ヲ得タル後、防禦砲火ハ急
ニ低下セシハ機上ヨリ明ニ觀察セラレタル所アルト共ニ被撃状況
ヨリ見ルモ亦之ヲ立證シ得ベシ

(ロ)

敵ノ熾烈ナリシ射撃状況ヲ顧ミ今更慄然タルモノアリト
虽モ砲火ニ直面シツ、攻撃運動ヲ實施シツ、アル際ハ反ツテ

五、雷撃兵器ニ關シ

敵艦心ヲ高潮セシムルニ過ギズ從ツテ運動性ニ於テ優越セル
飛行機隊、襲撃ニ當リテハ防禦砲火ニ眩惑サレ或ハ遠
巨雷發射ニ陥リ或ハ照準發射ニ混乱ヲ生ズルガ如キ虞ナレ

(1) 航行艦隊ニ對スル雷撃ハ本海戰ヲ以テ嚆矢トスベク搭乗員ニ對

シテハ近迫必中ヲ期スベキヲ深ク戒メ且水深ノ關係上發射

高度ヲ五〇米以下ニ制限セリ、然レ共過度ノ近迫、現用臭

雷、是深巨雷ノ關係上之ヲ許サザル所ナリ、

從來臭雷、沈度甚ニ是深巨雷ノ短縮、雷命中率向上、

見地ニ於テ急速解決ヲ要望セラレツ、アル所ナルモ更ニ戰鬥ニ

於テ 萬難ヲ排シ敢然近迫 發射セル臭雷反ツテ

効果ナキガ如キヲ精神ニ極メテ面白カラズ、沈度、是深巨

0338

1365

(四)

齊、短縮ヨリ刻下ノ急務ナルヲ痛感セリ、
 飛行機十備ノ際爆轟機ヲ容易迅速ナラシムル如ク飛
 機ノ機装又投下器ノ研究改良等ノ要アリ

少 佐							官 揮 指
中 隊							隊 中
原 石 尉 大							長 隊 中
第 一 隊	第 二 小 隊			第 一 小 隊			第 一 小 隊
長 曹 飛	正 利 山 植 尉 中			吉 唯 津 柳 小 長 曹 飛			長 隊 小 飛 番 機
G-357	G-356	G-355	G-354	G-361	G-352	G-351	操 縱 員
三曹角田金次郎 三曹長小沼房之助	一七藤田淺五郎 三曹里見義毅	一七倉本二生 三曹内山宜和	三曹高野敬 中尉植山利正	三曹川崎從太郎 三曹川田勝治郎	一七藤原聖 三曹大竹典夫	三曹蓬田利光 三曹長小柳津唯吉	
三曹宮田實 三曹山本勝雄	三曹地田定之助 二七山本一郎	三曹中西信義 三曹内海一孝	三曹長谷川義孝 三曹渡部恒	三曹坂井久平	三曹富田三天	少佐中西二一 大尉石原 三曹藤崎 三曹黨	偵 察 員
三曹高橋孝慶 三曹富井孝次	三曹野崎隆 三曹渡部道信	一七加藤猛 三曹中禰弘	三曹山本晴男 三曹二井勝人	一七末永一男 三曹竹田龜太郎	三曹山本鏡三 一七正木正彦	三曹墨江賢治 一七池田新一	電 信 員
三曹黒沼政治 一七曹小川金平	一七曹田村新太郎	三曹細川久二 一七曹星川博次	三曹井上茂朔 一七曹松原秀男	二曹桐澤光二 二曹秋元保	三曹石澤石松 三曹白井正己	一曹高橋卯吉	搭 整 員

附表第一飛行機隊編制表

中			西			中		
真井高			尉大			隊		
三第			隊			隊		
長曹飛			郎八崎山長曹飛			助之房沼小		
9-372	9-373	9-375	9-371	9-372	9-371	9-359	9-358	
一七曹齊藤永藏	一七曹中村郁雄	一七曹田村欣祐	一七曹岩崎兵衛	一七曹山本茂春	一七曹向平章三	一七曹中島貞登	一七曹丹生重男	
三曹長平松實	一七曹前田潔	一七曹淺沼均	一七曹國澤薫	一七曹岩田鐵吉	一七曹山口茂太郎	二七曹村上益夫	二七曹長谷兵衛	
一七曹渡邊長太郎	一七曹中村信一	一七曹海老原信吉	一七曹秋山定次	一七曹園部義隆	一七曹板垣正男	三曹阿形敬一	一七曹真鍋義孝	
一七曹沼田伊三郎	一七曹関本政二	一七曹高倉信一	一七曹大山外史	一七曹谷口幸男	一七曹松本健藏	一七曹安井留松	一七曹新山堅	

少 佐							
隊 小		第 二 階		第 一 階		隊 小	
第 一 隊		第 二 隊		第 一 隊		第 二 隊	
長 曹 飛		信 村 野		肇 村 板		長 曹 飛	
G-317		G-316		G-313		G-311	
一 曹 高 崎 外 茂 次	一 曹 永 田 信 吉	一 曹 三 谷 茂 平	一 曹 濱 松 操	一 曹 尾 茂 田 孝 一	一 曹 石 川 勇	一 曹 宮 越 清 治	一 曹 水 越 显
一 曹 関 根 桂 次	一 曹 大 関 諭	一 曹 伊 藤 勇	一 曹 野 村 信 二	一 曹 兩 宮 時 郎	一 曹 村 岡 正	一 曹 辻 村 清 治	一 曹 大 沼 正 雄
一 曹 和 泉 田 静 夫	一 曹 藤 井 清 美	一 曹 山 本 次 男	一 曹 長 谷 部 要 一	一 曹 中 林 七 次	一 曹 高 森 一 信	一 曹 小 川 秀 一	一 曹 新 所 秀 一
一 曹 黒 石 京 助	一 曹 岩 崎 國 成	一 曹 徳 永 一 無	一 曹 竹 島 正 利	一 曹 宮 原 武 雄	一 曹 野 中 光 雄	一 曹 井 上 政 一	一 曹 石 丸 春 美

中野			四收			西第			中隊		
隊小二第			隊小一第			隊小三			隊小三		
音正足帆射少			秋辰上井長曹飛			治春井平			治春井平		
♀336	♀335	♀334	♀333	♀332	♀331	♀319	♀318				
曹武藤辰雄	曹村関金次郎	曹白野正	曹河野治見	曹玉置次郎	曹長井上辰秋	曹村松利平	曹小川衛				
曹渡辺邦夫	曹名倉文雄	曹長鷺田光男	曹川口條太郎	曹角田正三	曹新野正確	曹平林祥次郎	曹大保次雄				
曹小島憲治	曹松尾順吉	曹平尾要一	曹西靜美	曹山口三男	曹河野辰見	曹中島吾三	曹川越宗太郎	曹菅文夫	曹安田正寛	曹大垣丹治	曹石川義方
曹濱口重穂	曹塚本光雄	曹塚義久	曹上村光雄	曹坂本辰馬	曹加賀谷英	曹西村雷喜	曹栗原茂男	曹古城利廣	曹助坂馬吉	曹谷口廣一	曹栗原茂男

引 透 シ	隊		
	次 滋		
	隊 小	三	第
	治 國	名 籍	長 中 飛
4383	4339	4338	4337
一 曹 金子島治 二 曹 寺島敬三郎	一 曹 角村吉太郎 二 曹 藤原義次	一 曹 内田静馬 二 曹 川添 勉	一 曹 小橋隆志 二 曹 長 鷄沼自治
一 曹 植守保治 二 曹 射金田吉一	一 曹 滋谷晴三郎	一 曹 伍村義男	一 曹 三入庄二
一 曹 大塚 梨 二 曹 松井孝人	一 曹 大島茂志 二 曹 片沼幸一	一 曹 富田彌之助 二 曹 篠原辰藏	一 曹 東 隆 二 曹 河江精香
一 曹 松田政治 二 曹 西浦正三	一 曹 山本 貞 二 曹 江頭 榮	一 曹 木村義則 二 曹 中原兼次	一 曹 大塚 正二 二 曹 市原芳政

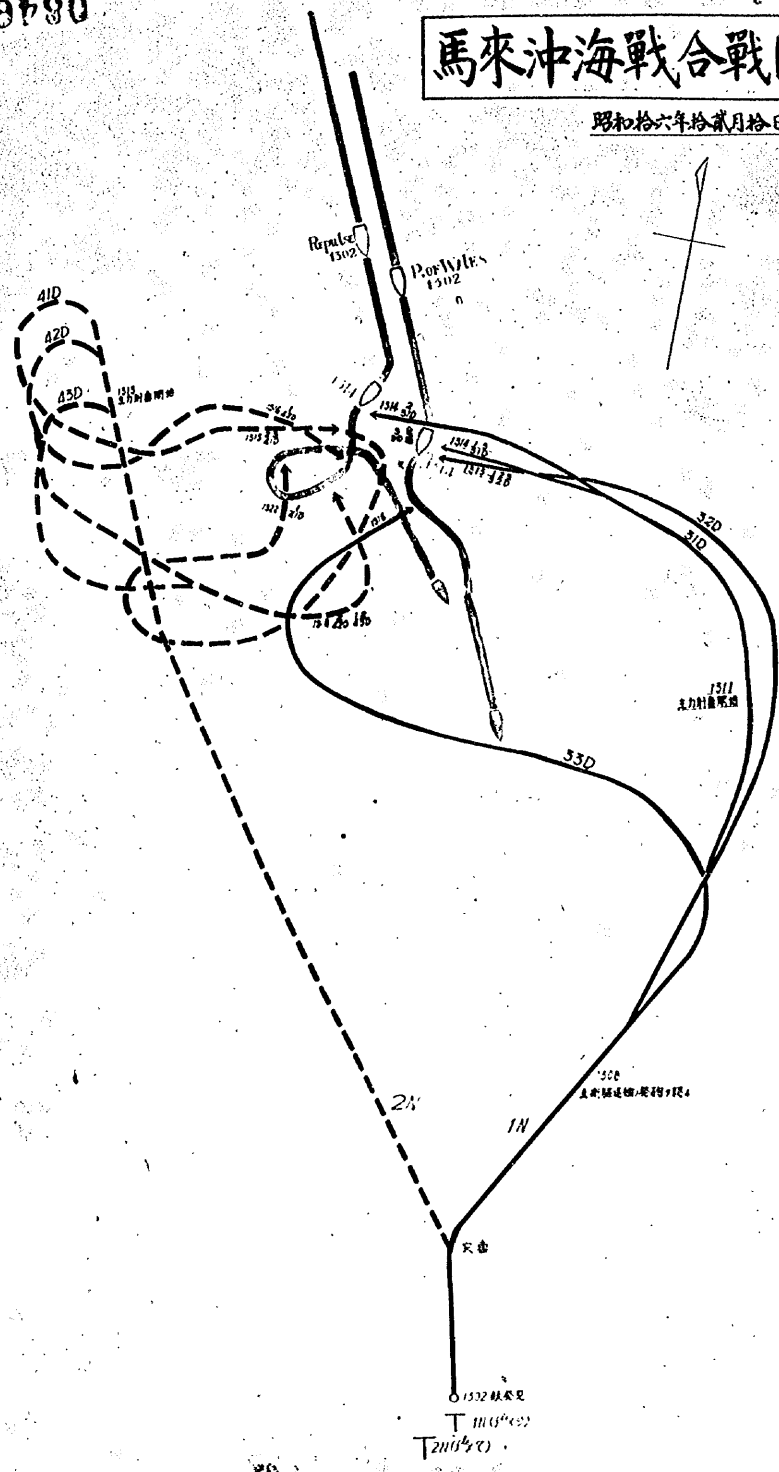
1
2D
2A

5790

6283

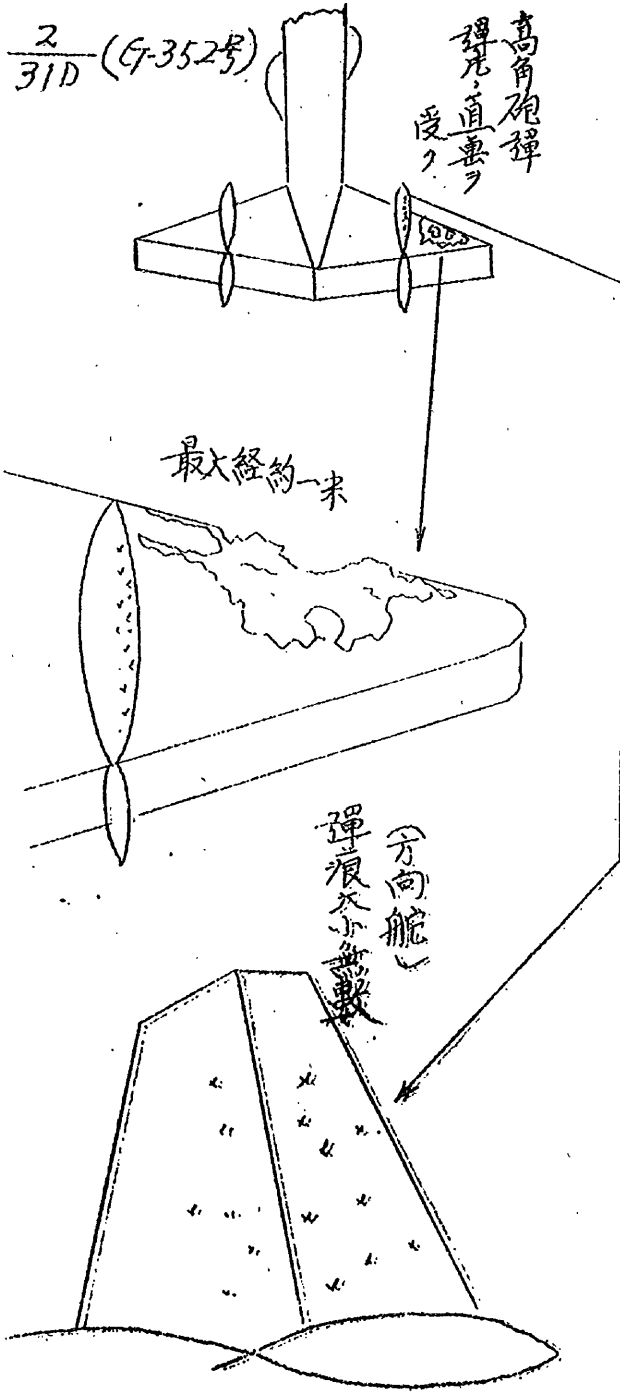
馬來沖海戰合戰圖

昭和拾六年拾貳月拾日



附表第四 死傷者調査表

死		戦		死傷別中隊	
一		三		小隊	
三		三		機番	
副電	副操	主電	副整	主整	偵察
一飛	三飛曹	三飛曹	二整曹	二整曹	二飛曹
未永一男	川崎從太郎	竹田龜太郎	相澤光二	秋元保	坂井久平
自爆					氏名
					記事

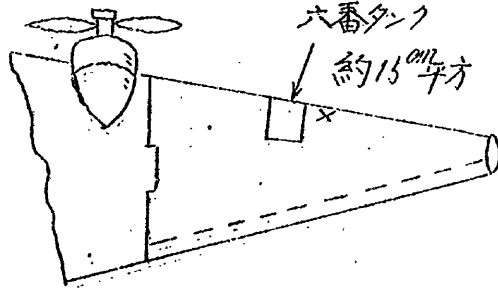


附表第五被彈圖

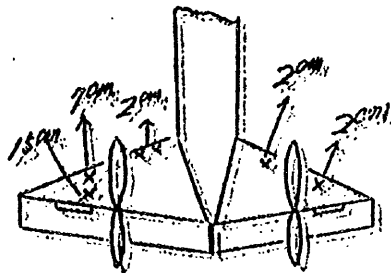
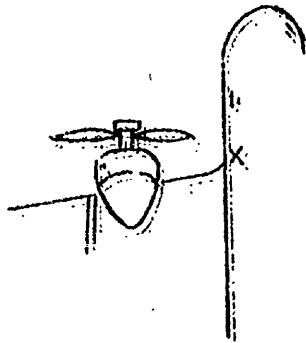
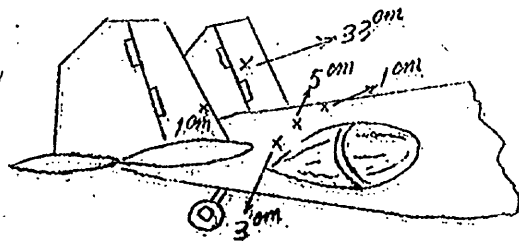
0890

9281

1
320
(G-354号)



2
320
(G-355号)

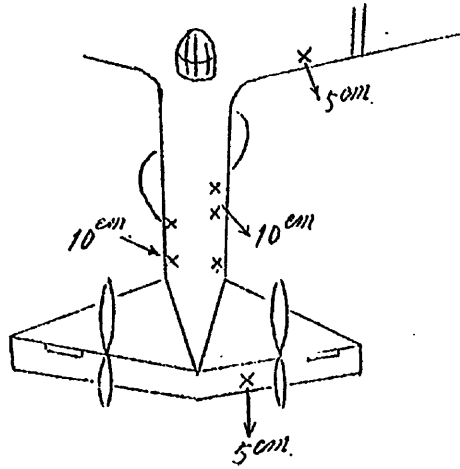
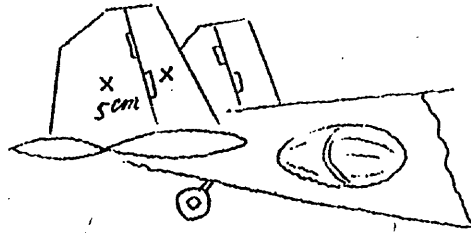


40

0880

428T

$\frac{1}{330}$ (G-357号)



附表第六兵器故障欠損調査表

G三六一号	G三三八号 左右發動機	故障箇所
一三五五ヨリトシテ雷東石避退中敵集中砲火ヲ受ケ 壯 烈ナル自爆ヲ遂グ	一〇二〇息ヲツキ振動出デシタメ「スイッチ」ヲ驗セシモ発火栓不良、如キ状態ヲ呈シ依然トシテ右、状況ナリ飛行ヲ断念シ引返ス一〇三〇右發動機モ振動ヲ出ズ、発火栓不良ト認め	経過
戦艦プリンスオブウェールズ 防禦砲火	左發動機發電器不良 右發動機發火栓不良	原因

附表第七兵器消耗調査表

兵器種別	消耗数
九一式魚雷	一六本
五〇番通常爆彈	九發
六番陸用爆彈	四發
二〇耗機銃彈	一〇〇發
七七耗機銃彈	二〇〇發

附表第八燃料潤滑油消費調査表

種別	消費量(豆)
航空八七揮發油	八七三八〇
航空礦油	五四七

附表第九戰鬥概報

着信者 炸長官

發信者 225f 司令官

225f 機密第三三番電(十六日一六〇〇)

馬來部隊第一航空部隊戰鬥概報第二號十二月九日追加

一。敵戰艦二隻出動、電ヲ傍受シ直々偵察隊陸偵一機中攻
三機發進續々雷撃隊中攻二六機爆撃隊中攻九機發進セルモ
佛印南部天候不良、爲敵ヲ見ズ十日。四五迄ニ全機歸着

(終)

着信者 炸長官

發信者 225f 司令官

225f 機密第三三番電(十六日三三三〇)

馬來部隊第一航空部隊戰鬥概報第三號十二月十日

一〇六〇ヨリ一三三。迄ノ間ニ偵察隊中攻一機陸偵二機雷撃隊中攻
 五機爆撃隊中攻三四機發進馬來東岸「クワンタンの九三度
 五五理附近ニ於テ一三五八ヨリ一四一五迄ノ間吳戰艦「プリンスオブ
 ウルズ」及「レパルス」其他直衛駆逐艦ニ對シ連續雷爆撃ヲ
 以テ猛龍表戰艦二隻ヲ撃沈一八〇。般着

ニ被害

戰場ニテ自爆鹿空二機 元空一機 佛印南部不時着鹿
 空七機

被彈 元空七機隊内修理可能

鹿空二機要工廠修理

五機隊内修理可能

美空一機隊内修理可能

使用兵器

航空魚雷
爆 彈

四八本

五番通爆

二五番

一六

六番陸用

四

着信者 作長官

發信者 225司令官

225機密第三三番電十一日一八二〇

馬業部隊第一航空部隊戰機報第三號十一月十日追加訂正

一巡洋艦一隻(或八嚮駛)擊沈ヲ追加ス

二被害佛印南部不特着鹿空二機ヲ一機ニ被彈鹿空二機

要工廠修理ヲ三機ニ訂正 美空二機要工廠修理ヲ追加

(終)

(終)